



# ヒブ(Hib)ワクチンについて

米の山病院小児科部長 田島重吉

ヒブ(Hib)とはヘモフィルス属インフルエンザb型菌のことで、通常、こどもさんの鼻や喉にすることがありますが、そのままでは病気になるしません。ヒブが血液や肺の中に侵入すると、**髄膜炎や敗血症・急性喉頭蓋炎などの深刻な病気**を引き起こします。通常5歳以下の乳幼児がかかります。

ヒブワクチンの使用が認められていなかった日本では、年間600人もの子どもさんがヒブによる髄膜炎にかかっていたと推定されています。その約半数は生後6ヶ月から1歳までで、かかると**5%が亡くなり、20%前後に後遺症**が残ります。諸外国では、10年以上前からヒブに対するワクチンを定期接種として接種し、ヒブによる深刻な病気は100分の1程度に激減しました。WHO(世界保健機関)でも乳児への定期接種を推奨する声明を出しています。

## (1) ヒブワクチンの対象年齢

ヒブワクチンは、**生後2ヶ月もしくは3ヶ月以上～5歳未満**の乳幼児全員

## (2) ヒブワクチンの1回の代金：7350円(消費税込み)

## (3) 接種方法について

**生後2ヶ月～生後6ヶ月：4週(3～8週)間隔で3回、1年後に1回の計4回**接種します。3種混合と同じ日に接種することもできますが、1週ぐらいずらすこともあります。なるべく生後6ヶ月までに3回の接種を終わらせます。そのためには、生後3ヶ月になったらすぐにヒブと3種混合の同時接種1回目、4週間後にヒブと3種混合同時接種2回目、1週間後にBCG接種、4週間後にヒブと3種の同時接種3回目、1年後にヒブと3種混合同時接種追加がお勧めです。

**生後7ヶ月～1歳未満**：初回接種としては**4週(3～8週)間隔で2回、2回目の1年後に追加接種を1回**受けます。

**1歳以上5歳未満**でヒブワクチン未接種の児は、**1回の接種**が必要です(初回接種は不要)。

## (4) 副作用について

軽度の副作用：接種部位の発赤や熱感や腫れ、38.3以上の発熱が稀にあります。  
中度あるいは重度の副作用：接種後2～3時間以内の全身蕁麻疹、呼吸困難

## (5) 事前の了解事項について



日本は、BSE(牛海綿状脳症)発生国原産のウシに由来する成分を医薬品の原料として認めていませんが、このワクチンは現時点ではその取り決めに反した原料を使用しています。しかし、欧州薬局法委員会からは医薬品製造に適している原料であることの証明書が発行されており、問題はないとされています。

